DOI：10.2490/jjrmc.62.416

REPORT

Jpn J Rehabil Med 2025；62：416-417

第１回日本生活期リハビリテーション医学会学術集会【印象記】

日本リハビリテーション医学会広報委員会

2025年２月１日・２日の２日間にわたり，第１回日本生活期リハビリテーション医学会学術集会が東京都品川区の昭和大学上條記念館で開催されました．本学術集会の会長を務めたのは，昭和大学（現昭和医科大学）医学部リハビリテーション医学講座主任教授であり，藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーション科診療科長の川手信行先生で，本学術集会のテーマは「2025ここから始まる生活期リハビリテーション医療・支援～生活期における多職種連携について考える～」で，2025年は厚生労働省が提唱する「地域包括ケアシステム構築の元年」にあたる年であり，生活期リハビリテーション医療の今後の方向性について，さまざまな視点から議論が交わされました．

全国から集まった参加者は450名近くにのぼり，会長講演，記念講演，基調講演，シンポジウム３題，一般演題，ポスター講演を合わせて90を超える発表が行われました．また，企業展示には８社，協賛セミナーには４社が参加しました．各分野の専門家が積極的に意見を交わし，生活期リハビリテーション医療の発展を実感できる場となりました．

高齢化が進む日本において，障がい児者や高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るためには，医療，介護，福祉が密接に連携し，継続的な支援を行うことが不可欠です．そのため，多職種が情報を共有し，実践的な知識を深める場として，本学術集会の意義は非常に大きいといえます．

記念講演では「地域リハビリテーションの考え方と実践～生活期における多職種連携と地域連携～」をテーマに，小倉リハビリテーション病院名誉院長の浜村明徳先生が登壇し，地域包括ケアシステムとの整合性や多職種連携の必要性が指摘される一方で，診療や介護報酬と結びつきにくく，実践の広がりが課題であると述べられました．

会長の川手信行先生

浜村明徳先生の記念講演

スイーツセミナーでは「介護保険の生活期リハビリテーションにおける訓練手法の標準コード化」と題し，広島大学病院リハビリテーション科の三上幸夫先生が講演し，介護保険下の生活期リハビリテーションでは標準的な訓練手法が確立されていないことが課題となっているため，今後は科学的根拠に基づいた評価・訓練手法・アウトカムの標準化を進めることが，生活期リハビリテー

ションの質的向上につながると提言されました．

本学術集会を通じて，生活期リハビリテーションや地域リハビリテーションの現場では，すでに多様な取り組みが行われていることが明らかになりました．しかし一方で，標準化された支援体制の整備，地域包括ケアシステムのさらなる活用，治療と仕事の両立支援の強化，生活期における多職種連携の推進，地域リハビリテーションの普及と課題解決など，今後の重要なテーマも浮かび上がりました．

第１回の学術集会は，生活期リハビリテーションの発展に向けた貴重な第一歩となりました．今後も学会を継続することで，現場の課題が明確になり，新たな解決策が生まれることが期待されます．今年度の第２回学術集会では，より具体的な取り組みが共有され，実践的な議論がさらに深まることが見込まれます．今後の医学会の発展とともに，さらなる成果が生まれることを期待したいと思います．

第１回日本生活期リハビリテーション医学会学術集会【報告記】

昭和医科大学藤が丘病院　正岡智和

第１回日本生活期リハビリテーション医学会学術集会を 2025 年２月１〜２日の期間，東京都品川区の昭和大学上條記念館において昭和大学（現昭和医科大学）医学部リハビリテーション医学講座の川手信行主任教授を会長，杉山みづき講師を事務局長として開催しました．2017 年に日本生活期リハビリテーション医学会が設立されてから初めて開催される学術集会となり，日本リハビリテーション医学会の協力も得ながら準備を進めてまいりました．日本リハビリテーション医学会の会員のみならず，診療科や職種の枠組みを超えた様々なバックグラウンドをもつ生活期のリハビリテーション医療に関わる皆さま方を募り，日常の成果を報告したり，抱えている問題を議論しあったりする場として企画しました．

当日は天候も危ぶまれる中，日本全国から 400 名を超える大勢の方々にご参加いただきました．演題数も会長講演，記念講演，基調講演，シンポジウム３題，一般演題，ポスター講演を合わせると 90 演題を超えて当初の計画を大幅に上回り，皆さまの関心の高さをあらためて感じるとともに運営側としても身の引き締まる思いとなりました．またご協賛いただきました多くの企業・団体の皆さまにも感謝申し上げます．そして最後となりますが，第２回以降の学術集会におきましても生活期リハビリテーション医療・支援の発展につながる盛会となりますことを祈念いたします．

学会準備中の様子

会長の川手教授と事務局長の杉山講師とともに